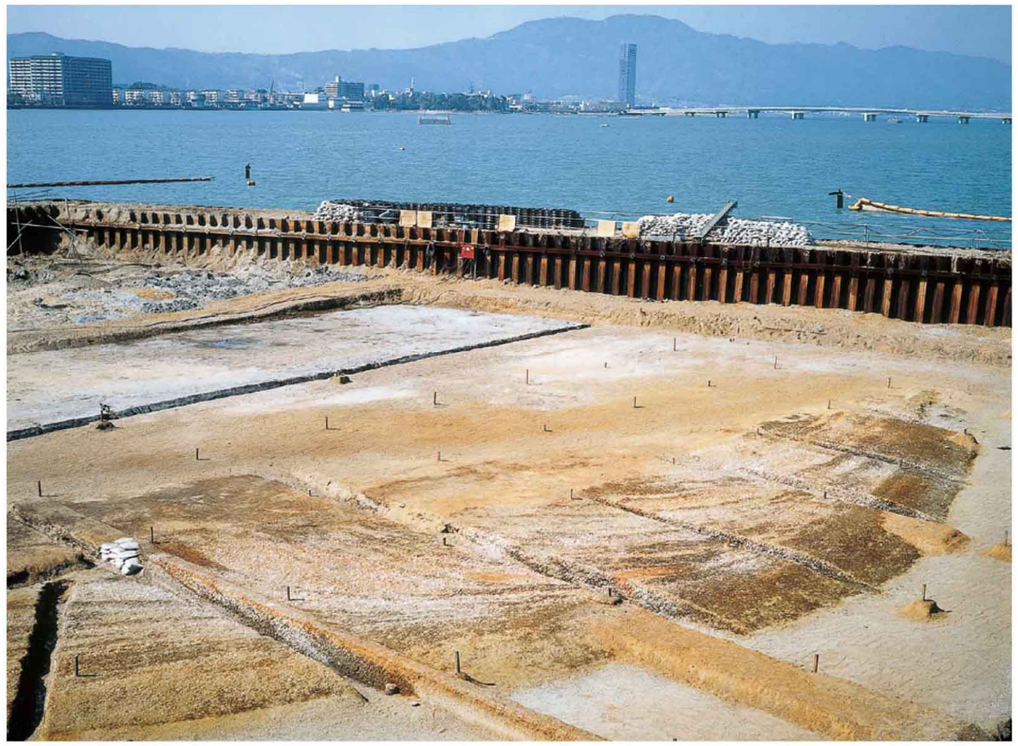
# 石山貝塚（いしやまかいづか）と粟津貝塚（あわづかいづか）

大津市石山寺辺町（てらべ）ほか



粟津第３貝塚調査状況

近江の地で暮らす人々は、縄文時代の昔から琵琶湖で捕れる魚や貝などの湖の幸、獣や木の実といった山の幸、その両方の豊かな恵みを受けて生活してきた。滋賀県内には多くの縄文時代の遺跡があるが、水深が浅くて貝類の採取に適していた琵琶湖の最南端付近には、大規模な貝塚が石山と粟津の２カ所で形成された。

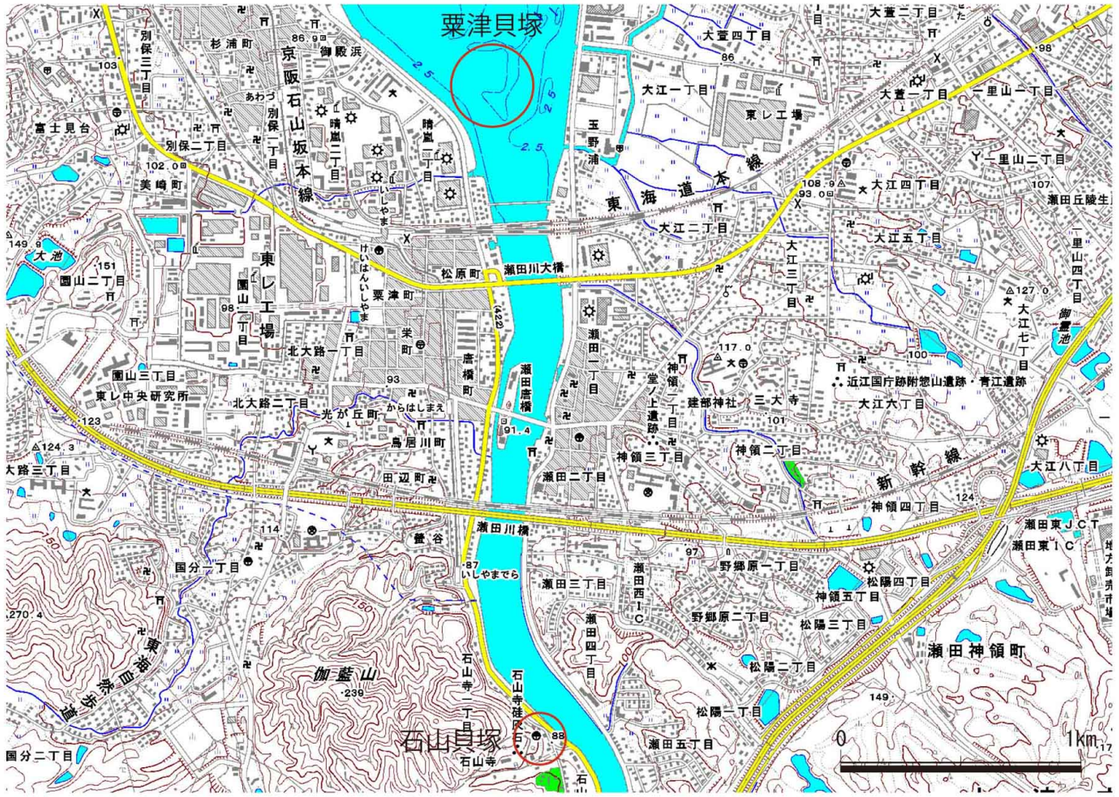
貝塚とは、昔の人たちが食料にした貝の殻をまとめて捨てたことにより形成されたものであるが、そこには動物や魚の骨なども一緒に捨てられている場合が多い。石山貝塚や粟津貝塚から出土した資料を詳しく分析することによって、近江の地で人々が自然の恵みを受けて暮らしていた数千年前の様子を、我々は具体的に知ることができるのである。

## 周辺のみどころ

石山貝塚の山手にある古刹石山寺は、西国三十三所観音霊場第13番札所でもあり、多くの観光客で賑わっている。境内には国宝に指定されている本堂、多宝塔など多くの歴史的建造物をはじめ、天然記念物に指定されている石山寺硅灰石（けいかいせき）など、見どころには事欠かない。

また、京阪石山寺駅から北へ徒歩約３分の丘陵上には、重要文化財の住友活機園（かつきえん）がある。本来は住友財閥２代総理事の伊庭貞剛（ていごう）が引退後に居住した邸宅で、明治後期の大邸宅の姿を今に伝える建物群である。現在は伊庭貞剛記念館として整備され、事前申し込み制で一般公開が行われている。

国宝石山寺多宝塔




### [アクセス]

●**石山貝塚**：京阪電鉄石坂線石山寺駅下車、南へ徒歩１５分。石山寺駐車場内の現地には、遺跡の説明看板と標柱が立てられている。大津市指定史跡。

●**粟津貝塚**：京阪電鉄石坂線粟津駅下車、東へ徒歩１０分で湖岸に出る。第１・第２貝塚は、この沖合の湖中にある。

### [ もっと詳しく知りたいひとへの案内 ]
（関連文献／関連施設）

●大橋信弥・小笠原好彦編『新・史跡でつづる古代の近江』ミネルヴァ書房　2005年
●『滋賀県石山貝塚研究報告書』平安学園　1956年
●『粟津湖底遺跡　第３貝塚』滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会　1997年

石山貝塚発掘調査風景

石山貝塚出土の縄文土器

## 石山貝塚と粟津貝塚

**所在地　大津市石山寺辺町ほか**

約３kmを隔てて、石山と粟津で形成された縄文時代の貝塚は、琵琶湖周辺で確認されている貝塚の中で最大級であるばかりか、淡水産の貝塚としては世界的にも最大級のものといわれている。

明治時代にエドワード・モースが東京で大森貝塚を発見して以来、貝塚は縄文時代に特徴的な遺跡として、全国的に調査研究が進められてきた。石山貝塚は瀬田川の右岸、石山寺の南東に位置するが、昭和16年に初めて発掘調査が行われて以来、考古学者達によって数次にわたる発掘調査が実施されてきた。発掘調査で見つかった紋様に乏しい縄文時代早期後葉（約7,000年前）の薄手の土器群は「石山式土器」と呼ばれ、石山貝塚は近畿地方を代表する縄文遺跡の一つとして広く知られている。

現在は石山寺の駐車場の地下に埋もれているため、地上から貝塚の様子は見えないが、セタシジミを主体とする貝層は東西50m、南北60mの範囲に広がり、厚い部分では２mを超える。貝層の中からは、獣や魚を蒸し焼き調理するための遺構である集石土坑12基や、屈葬された人骨５体も発掘されている。

一方の粟津湖底遺跡（粟津貝塚）は、その名前のとおり粟津付近の湖底に沈んでいる遺跡である。貝塚が形成された縄文時代には付近は陸地であったが、その後に琵琶湖の水位が上昇して水没したものである。この遺跡は昭和27年に湖底から獣の骨などの遺物が引き揚げられたことにより発見された。当時は琵琶湖の透明度が高かったため、湖底に白い貝層が堆積している様子が湖上の船から見えたという。

粟津湖底遺跡全景

粟津第３貝塚の土層堆積状況

粟津第３貝塚の貝殻と現代のセタシジミ

粟津第３貝塚縄文土器出土状況

遺跡の発見から数十年の時を経て、琵琶湖開発事業に伴って遺跡の周辺を航路 浚渫（しゅんせつ） のために掘削工事する必要が生じた。このため、当時知られていた２カ所の貝塚の位置を避けて、東側に工事範囲が設定されたのであるが、この場所にも新たに小規模な第３の貝塚が発見された。そこで、湖中に鋼矢板（こうやいた）を打ち込んで水を締め切り、ポンプで排水しながら発掘調査を実施することになった。平成２年から３年にかけてのことである。

発掘調査された第３貝塚は、縄文時代中期（約4,500年前）に形成されたものである。この貝塚の特徴的な点は、陸上では腐って消滅してしまう木の実などの植物遺体が、水漬けの状態だったために腐らずに残っていたことで、縄文時代の食生活を知る上で画期的な調査成果が得られた。

発掘調査では貝層と木の実（堅果類）の層が交互に堆積しているような状況で発見され、木の実はトチ・ヒシ・ドングリ（イチイガシ）が大部分であった。一方の貝層は、セタシジミが90パーセントを占めていた。貝層からは多くの動物や魚の骨も発見された。動物ではイノシシ・シカ・スッポンなど、魚ではフナ・コイ・ナマズ・ギギ・ワタカなどの骨が確認されている。

これらの食材をカロリー計算してみると、木の実がデンプン質食料として重要だったこと、タンパク源としては魚介類が大きな比率を占めていたことが分かった。湖の幸は、縄文時代においても欠かすことのできない食料資源だったのである。

粟津湖底遺跡の中心部分である第１・第２貝塚は今も湖底に眠っており、大津市指定史跡になっている石山貝塚とともに、縄文時代の生活を伝える貴重な遺跡であり、「水の宝」として大切に守り伝えていきたい文化遺産である。